

第14期 第10回白石区地域部会・運営部会

日時：2024年1月14日（水）10:30～12:00

場所：白石区役所 4F A会議室

○出席

常盤野会長・斎藤副会長・こころか服部氏・ビビット南郷田中氏・主査佐藤氏・相談室あゆみ岸井氏・菊地氏・夢民戸田氏・越後氏・ワンオール林氏・ピアデザイン稲垣氏・事務局西町

○欠席

ラダーサポート宮西氏

1. 報告・連絡事項

*部会長から

特になし

*子ども部会より

<白石区の子ども部会>

特段動きなし。次年度をどのように計画・展開していくか、役員構成含め色々な方に声掛けをしている。部会長は斎藤氏が続投。

<札幌市の子ども部会>

1月30日（火）全体研修会「札幌市の子どもを取り巻く支援」を開催予定。子ども家庭庁から講師を招き、シンポジウム形式での開催。主に乳幼児～放課後デイサービスまでの児童を対象とする。来年度の児童福祉法改正により、インクルージョン推進が全面的となる中で、現場がどのような実践となっていくのかを話される。また、4月からの児童分野の報酬改定に向け、国の方針や考えにもふれていただく予定。シンポジストは、母子保健領域から札幌市保健センター清水川氏、児童発達支援センター金澤氏、放課後デイサービス中山氏が当日登壇される。

*就労部会より

集まる場を二月中に開催予定。実行委員へ打合せの日程調整中。従来参加されていた方に加え、新たなメンバーも企画に参入される予定。

*初任者基礎研修会より

12月26日にチームで打合せ。研修会の振り返り、今年度全体の振り返り、来年度の構想について等を振り返る。研修会は、後半のGWの時間が不足していた部分があったこと、参加者からの声では実際の支援エピソードが聞けて良かったという意見が見られた。今年度の残り期間の活動について、

詳細をまだ詰め切れていないが、研修会の予定はなく、次年度の準備にあてたいと考えている。

*事例検討会より

特になし

2. 協議事項

*次年度の活動を考えるための今年度の振り返り

- ・運営委員の中で相談室が主体となり、初任者基礎研修会、事例検討会のチーム別に分かれて活動。それぞれ研修を開催し、初任者基礎研修会は二度開催、事例検討会は一度開催するも、事例提供者が現れず、ハードルの高さを感じる声が多く挙がり、開催方法も含め一旦運営委員で検討の方向に。
- ・9月の白石全体会では、BCP作成についての研修会を開催。(北海道よろず支援拠点さんの協力により)元日の震災を受け、改めてBCPの重要性を感じたところ。

*次年度以降について(取り組みたい課題など) ※フリーテーマ

- ・自立支援協議会の設立以前より、白石ではネットワークを作る動きがあった。設立から十数年が経過し、当時から運営委員のメンバーも大きく入れ替わる。現在は障害福祉サービス事業者数の爆発的増加が見られ、収拾がつかない現状。色々な意味でも、見直しが必要な時期であると感じる。
- ・法律の中に自立支援協議会が条文としてある反面、実態は任意のボランティア団体のようなもの。札幌市自立支援協議会の全体会に参加する人は、特別公務員として位置づけられ、報酬が出ている。協議会における理念と実態の乖離、落差にどうしていくべきなのか、常に考えさせられる。
- ・事業所管理者の視点から、経営・運営面の意識は欠かせないが、ビジネスが常態化している現状にジレンマを強く感じている。
- ・サービス利用者の考える「配慮」と、自立促進との間で乖離があり、食事が無料であること、送迎の有無などが選定基準になっていることがほとんど。(例:交通機関を利用する能力はあるが、送迎を希望する等)障害福祉サービスそのものが、障がい者を生み出しているように感じる。
- ・当事者主体による活動・運動は、最近耳にすることが少ない。福祉サービスが充実した影響なのか、声を上げることも少なくなってきたのかもしれない。
- ・共同生活援助(グループホーム)は数が足りないという声が挙がる中、実際には空室があるというのはどういうことかを考える必要がある。
- ・共同生活援助(グループホーム)では、男女が共に居住することができない。夫婦として共同で住む想定をそもそもしておらず、制度を変え、そういったニーズに沿ったことができる仕組みが作られると良い。
- ・初任者基礎研修会のチーム参加者からは、利用者との距離感、家族関係、子どもの癩癩への対応などへの悩みの声が出る。次年度はこういった声を拾い上げ、整理をしていく。
- ・外部機関と横の繋がりを持ちたい声もあがる一方、実際には機会があっても参加しないことが多い現状。他事業所への関心は高いが、密に関係性を築きたいか、というのは別であるように思う。
- ・初任者基礎研修会の中では、一定数学びたい人、繋がりを求めている人がいるのは確認できた。参加者それぞれ参加に至る背景は当然異なるが、様々な立ち位置の方に参加いただけることは良いと思

う。シンポジウム形式や、グループワーク形式、制度関連の勉強もしたい声もある。

・コロナで止まっていた時期の影響が大きく、コロナ明けとしてどのような活動が良いのか着地点が見つからない。協議会も、集まることを主としていたが、参加しにくい状況がまだ続いているのも現状。研修の在り方がオンライン主流に変化していたり、外部に依頼することも多くなってきている。

・小規模な法人も増えてきており、研修をしたいができない、というところもあるのでは。そういったターゲット層にも必要な研修をしたい。

・企画者も、虚しさが残らないような構造に変えていく必要性を感じる。

・平成8年に競争原理が導入され質を上げる目的ができたが、本当にそうなっているのか、と思うことがある。

・研修は手段であり、発信して伝えることや、交流の中からニーズが生まれる仕掛けも必要。

・行政と一体的に行える協議会はどういうものか。障害福祉課の中でも、協議会の事務局があるところは良いが、それ以外はコミュニケーションが取りにくく、そこで話が展開されていない現状がある。

*次年度の体制について

常盤野会長、田中氏、服部氏で協議。常盤野会長が、会長をもう一期担当することに。斎藤副会長が次年度退会予定となっており、新たに児童分野からの参加を受け入れたい。

3月に運営委員と、初任者基礎研修会メンバーを含めた交流会をしたい。→賛成。

3. その他

(1) 告知・PR

(2) 次月予定 2024年2月14(水) 10:30~12:00 場所 二階会議室(窓側)
次回司会 斎藤副会長